



浜

り

ハ

通

信

令和元年9月1日
71号発行



浜通り訪問リハビリステーション



今年も暑い夏を迎えています。暑いと虫たちの行動もにぶりますが、これから暑さも徐々に和らいでいくと虫たちの行動も盛んになり虫刺されも増えます。そこで、今回は虫刺されの対処方をお伝えします。

虫刺されはファーストエイド(対処)が大事

○虫刺されとは？ **虫に刺される、咬まれる、吸血されることで起こる皮膚炎です**

○虫刺されの主な症状と虫の種類

1. かゆみを引き起こす……………蚊、ダニ、ノミ
2. 痛み、かゆみを引き起こす……………アブ、フヨ(フユ)
3. 痛み、ショック症状を引き起こす…ハチ、ムカデ
4. 触ると皮膚が炎症を起こす……………毛虫



○対処の手順

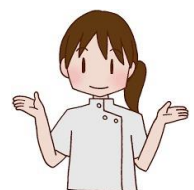
1. 掻くのは我慢(掻きこわしてしまうと、「とびひ」細菌皮膚感染症になることがあります)
2. 炎症を抑えるために冷たい水で洗い流す
3. 刺された箇所の確認(毛虫やハチの場合、毛や針が刺さったままの場合があります)
4. 虫刺されの薬をぬります

* 体質によってはハチやムカデ、他の虫によってもアレルギー反応(ショック)を起こすことがあります。短時間で全身のじんましんや嘔吐と呼吸困難、意識障害がみられたら命の危険があるため救急車を呼ぶなどすぐに医師の治療を受ける必要があります。

○市販の薬の使い方・選び方

軟膏は主に抗ヒスタミン剤(かゆみを鎮める)、ステロイド剤(炎症を鎮める)、抗生物質(化膿するのを抑える)などの成分が含まれています。症状に合わせて塗る薬を選びます。例えば…

- ・かゆみだけ 抗ヒスタミン剤が含まれているもの
 - ・赤み・腫れが強い ステロイド剤+抗生物質が含まれているもの
- 不安なときは、薬剤師さんに相談して購入するのが一番です。



* 市販の薬を5~6日くらい使用しても良くならないときは医療機関を受診しましょう!